



## 感染制御医学講座

### 多角的なアプローチで感染制御を目指す

主任教授 金光 敬二

感染制御医学講座は教授、3名の教官、臨床検査技師1名、大学院生3名、及び学外研究員で構成されています。基本的には附属病院内の感染制御部で感染対策チームとして活動し、感染対策や症例についてのコンサルト業務を行っていますが、当講座における最近の研究内容の一部についてご紹介させていただきます。

#### ●感染症アウトブレイクの解析

我々は院内の感染制御業務に加えて、福島県内の他の医療機関で発生したアウトブレイクについても調査解析を行います。アウトブレイクの発生要因には多くの因子が関与しますが、それらを客観的に解析し、効果のある対策を検討します。これまで当講座で行った調査解析が、*Journal of Hospital Infection*、*American Journal of Infection Control* 等の感染対策に関して評価の高いジャーナルに掲載されています。また最近、カルバペネマーゼ産生菌に関するスクリーニング法についての報告を行いました (Saito K, et al. *Jpn J Infect Dis.* 2019)。耐性菌の早期発見につながることを期待されます。

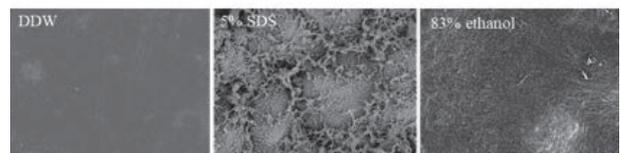
#### ●抗菌薬併用療法の有効性に関する検討

この研究テーマは当講座で本年度より新しく取り組むものです。現在、様々な耐性菌が問題となっており、それらにはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)、基質拡張型βラクタマーゼ (ESBL) 産生菌、前述のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌などが存在します。これらの治療においては抗菌薬併用療法が用いられることがありますが、その有効性を検討した報告は殆どありません。当講座では血中薬物濃度シミュレーターを2台設置し、本年度よりこの研究を開始することとなりました。大学院の研究として本テーマを行う人材を現在広く募集しています。

#### ●手指消毒薬による皮膚障害性についての検討

現在、医療従事者の手指衛生として多くの場合にアルコール性手指消毒薬が使用されていますが、頻回の使用により手荒れの問題を抱えている方は少なくありません。我々はこの点にも着目し、消毒薬と皮膚細胞ダメージとの関係や、より刺激性の少ない手指消

毒法の開発研究を行っています。下の画像は、皮膚細胞の消毒薬作用後の変化について、電子顕微鏡にて観察しています。コントロールの蒸留水 (DDW) と比較して、石鹼に含まれる界面活性剤 (5% SDS) やエタノールでは明らかなダメージが起こります。



#### <お知らせ>

当講座が主幹となり以下の2つの学術集会が開催されます。

- ①第68回日本感染症学会東日本地方学術集会・第66回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学術集会  
開催日時：2019年10月16～18日  
開催場所：仙台国際センター (仙台市)
- ②第35回日本環境感染学会総会・学術集会  
開催日時：2020年2月14～15日  
開催場所：パシフィコ横浜 (横浜市)

いずれも全国レベルの学術集会のため、参加規模の問題から福島市以外での開催となります。これらを通じて感染制御、感染症臨床、感染症領域の研究について当講座は広く社会に貢献します。当講座への大学院進学、あるいは感染症専門医取得等に興味のある方はどなたでも気軽にお声がけ下さい。

